

十勝西部森林管理署東大雪支署
鹿追町 商工観光課観光振興係

森林整備官
係長

蔵野 亜紀子
橋爪 奈都恵

1. 背景・目的

政府は観光先進国日本の実現に向け、平成28年3月に「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定しました。これを受け林野庁は、山村地域の観光需要の拡大を図るため、平成29年度より「森林景観を活かした観光資源の創出事業」を開始しています。当事業では、国有林の「レクリエーションの森」のうち93箇所をモデル箇所として選定し、モデル箇所における情報発信の強化や環境整備を平成29年度から平成31年度にかけて順次実施していくこととしています。

東大雪支署においては、鹿追町・上士幌町・士幌町にまたがる然別自然休養林がモデル箇所に選定され、事業初年度の平成29年度に事業を実施することとなりました。この発表では、然別自然休養林における事業初年度の取り組みを関係者で共有することで、次年度以降に事業に着手するモデル箇所の活動指針策定に貢献できればと考えています。

2. 取組内容

2-1. ワークグループの設立

活動の主体である然別自然休養林保護管理協議会の関係者のうち、鹿追町、環境省、地元ネイチャーガイド会社、東大雪支署の4者でワークグループを設立し、事業の実施内容を検討しました。

ワークグループで検討した内容を協議会で共有する方法をとったことで、多機関で構成される協議会全体で最初から検討を行うよりも効率的に事業を進行することができました。



ワークグループでの検討の様子

2-2. 情報発信(ソフト対策)

○キャッチコピーの作成

「星降る湖で神秘的な森林(世界)を感じながら、
ここでしかできない経験を」

然別自然休養林の特徴をイメージできるキャッチコピーを鹿追町役場職員と当支署職員から募りました。



キャッチコピーのイメージ
(撮影:岩崎 量示)

○ウェブ・リーフレットの作成

歴史・文化的特徴や楽しみ方の提案など、観光客誘致をねらった掲載内容の検討等を行いました。鹿追町と地元ネイチャーガイド会社の全面協力の下、地域の魅力が最大限伝わるような構成に仕上げました。

2-3. 環境整備(セミハード対策)

○標識類の撤去

標識類のうち、経年劣化しているものや、デザイン等の統一化を図るため新設する箇所については撤去しました。



老朽化した標識

○標識類の設置

インバウンド対策を講じた誘導標識、案内標識を新設しました。朽ちていない箇所については一部資材を再利用するなど経費削減に努めました。設置は協議会が行いました。



誘導標識の設置

3. 今後の展望

- 観光客等の反応及び評価の取りまとめ
- 各局各署間での実施事例の共有
- 通過型観光客等の潜在的な数値の把握
- 地域材の積極的な活用

事業評価と更なる磨き上げ
現状把握と課題の明確化
地域林業への貢献